





理科授業モデル

(小学校第5学年版)

学習過程	育てたい問題解決の能力	指導の工夫																								
<p>1 つかむ</p>	<p>○変化と関係する要因を抽出すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活経験や既習事項から ・事象の変化の観察を通して 	<p>○変化と関係する要因を抽出しやすくするための教材の提示の仕方や教具を工夫する。</p> 																								
<p>2 追究する</p>	<p>A変化と、それに関係する要因とを関係付けた実験計画を立てること</p> <p>B要因を計画的に制御した実験計画を立て、実験し、考察すること</p> <p>※学年の進行に伴い、最終的にAの過程を経なくても追究できるようにしていく。</p> 	<p>◎制御すべき要因と制御しない要因とを区別しながら観察、実験などを行っていくことの必要性に気付かせ、「要因の計画的な制御」を意識した観察・実験の場面を意図的に組み込む。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>①「変化と関係する要因」を関係付けた実験計画を立てさせ、実験を行う。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>②調べたい要因以外の要因を計画的に制御する必要があることに気付かせる。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>③「要因を計画的に制御」した再実験を行い、考察し、結論を導き出す。</p> </div> 																								
<p>3 まとめる</p>	<p>○追究結果を図表や文章でまとめ、日常生活や身の回りの事物・現象と関係付けて考えること</p>	<p>○課題追究の結果を図表化や文章化してまとめ、規則性や法則性を導き出す。</p> <p style="text-align: center;">植物の成長に必要な条件</p> <table border="1" data-bbox="986 1234 1394 1464"> <thead> <tr> <th>鉢</th> <th>条件</th> <th>水</th> <th>肥料</th> <th>光</th> <th>成長</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>植木鉢A</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>植木鉢B</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>植木鉢C</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table> 	鉢	条件	水	肥料	光	成長	植木鉢A		○	○	○	◎	植木鉢B		○	×	○	○	植木鉢C		○	○	×	×
鉢	条件	水	肥料	光	成長																					
植木鉢A		○	○	○	◎																					
植木鉢B		○	×	○	○																					
植木鉢C		○	○	×	×																					
<p>4 高める 振り返る つなげる</p>	<p>○学習成果を自然とのかかわり方に生かしていくための考えについて、具体的に示すこと</p> 	<p>○学習内容を実際に活用することを通して、学習したことが確実に身に付き、実生活の中で役立てられることを実感できるようにする。</p> 